

雪中に映えるフラッグ

2007年1月8日 愛知OLCトレイル大会

小山太朗

低気圧が日本海沿岸に沿って北上した去る新年の1月7日、8日、愛知OLCがスプリント、トレイルOの二日間大会を開催した尾張旭市の森林公園は、数センチではあったが積雪の中にフラッグを探す異例の大会とはなった。

ASKから愛知OLCへ

スプリントの初日は朝からは「雪」、数センチの積雪ではあったが、ランナーたちは新雪をものともせず、真白に化粧した自然公園の中、鮮やかに映えるオレンジ・フラッグを求めて存分に走り回った。走り終えた後は、もちろん泥まみれ。

さて、これ以上雪が積もったらトレイルOは実施不可能か・・・と思わせたが、一日目の午後には幸い雪は止み、トレイルOの開催された二日目は薄日の差すまでに回復し、積雪もかなり消えた。

愛知OLCのトレイルO大会は、昨年まではASK大会と称してその質の高さが定評の大会だったが、今回も広い広い森林公園の自然の地形を多用したコースがトレイルOの楽しさを倍化させたようだ。

ISOMに準拠してこまかく地形表現された地図、変化のあるコース、工夫されたコントロールはやはりASK大会の流れを継承するもので、参加者を十分に苦しみ、楽しませた。

67.4%・・・やや難しかったか？

コースはA、B、Nの3コース。ちなみにAコースは2.2kmに14コントロールを90分でまわらなければならない少しばかり手ごわいコース。如何に工夫されたコースであったかは以下のAコース(クラス)での課題特徴物(部)で推測できよう。

すなわち、沢×5か所、丘・こぶ×3か所、オープン、尾根、みぞ(水)、土がけ、岩がけ、独立樹(目立つ樹)が使用されている。「G欄」では「側」は1か所だけであり、部分、あいだ(間)、頂上などが使用されている。

また、2か所に5個のフラッグがある

だけで、ほとんどがA-Dの4個のフラッグでコントロールが構成されている。難易度を高めるためには得てしてフラッグの数を多くする傾向にあるが、数に頼らず内容で挑戦しようとするのも、ASK大会当時からの伝統のようだ。

TCを除く全コントロールの正解率は平均で67.4%。全体的に少々難しかったか、あるいは設計に甘さのあるコントロールがあったのか、運営者にとっても良い反省材料となるだろう。なお全(14+1)問正解は木村治雄さん(東京農工大博覧会)一人であった。2?5位はいずれも同得点(14点)でTCでの秒差争いであった。(5位までの成績は下記参照)

方位を答えさせず難しいTC

TCもテクニカルな設計で面白かった。大小の岩が密集する庭園状のところ、岩石の間を縫って小径が曲がりながら通っている場所を使い、課題は「真ん中の、小径の曲がり」である(図を参照)

描かれている岩石を照合し、見え隠れする小径を追ってゆけば正解に到達するのだが、コース・プランナーはそうは簡単に卸してはくれなかった。正解場所の「曲がり」が何とか確認できるにもかかわらず、さらにその奥に「曲がり」があるようにフラッグを岩のそばに一本置いたのである。周辺の状況を詳細にチェックするのをおろそかにすると、その奥のフラッグ場所が「曲がり」に見える・・・というものである。

ちなみに、TCでの正解はAクラス参加54人中24人=正解率44%)数字が示すとおり、かなり難度は高かったといえる。TCでは、「側」という課題が圧倒的に多いが、方位を使用せず、しかも難しい課題であった。

新たに2名のE権取得者

今回の大会は、来る5月開催の全日本トレイルO選手権大会(JTOC)のEクラス出場権を得るための指定大会であったため、Aクラス上位5名がその出場権を獲得した。今までの有資格者を除くと、鈴木陽介(三河OLC)と、今田幸史さんが、新しく出場権を得たことになる。

Aクラス成績：

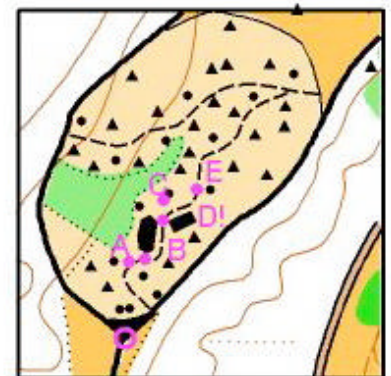
木村治雄(東京農工大博覧会)15点11秒
山口尚宏(OLCルーパー)14点12秒
鈴木陽介(三河OLC)14点15秒
今田幸史 14点31秒
児玉拓(多摩OL)14点42秒

なおページの都合上割愛したB、Nクラスの成績については愛知OLCのHPを参照されたい。

<http://aolc.arrow.jp/>

(当日の雪中大会の様子の写真も見ることができる。)

当日午後は愛知県OL協会主催の平成18年度オリエンテーリング指導者研修会が開催された。また、二日間にわたり日本トレイル・オリエンテーリング研究会主催のトレイルO強化合宿も開催された。



TC

D

(小山太朗)